



明石市ボランティア連絡会

50周年を迎えました!!



Contents

明石市ボランティア連絡会創立50周年	2
ボランティア養成講座のご案内／ふれあい会食	3
リポート地域活動	4
社協会費について	5
KOKENプロジェクト（産官学連携）を 神戸学院大学で行いました！他	6
オレンジサポーター養成講座 in 樺まつり2026	7
令和7年度（2025年度）事業報告と決算	8

Follow Me!



Instagramはじめました！
地域の活動や社協の取り組みについて発信していきます



編集
発行



社会福祉法人
明石市社会福祉協議会

兵庫県明石市貴崎1丁目5番13号 明石市立総合福祉センター内

TEL (078) 924-9105 [代表]

FAX (078) 924-9109

✉ info@akashi-shakyo.or.jp

🌐 <https://www.akashi-shakyo.jp/>

明石市社協

🔍 検索



- 気象警報の発令などにより、行事・イベントなどが中止・変更になることがあります。事前にお問い合わせください。
- 市外または携帯電話からのお電話・FAXの送信は、市外局番 (078) からおかけください。

この『あかしの社会福祉』は、赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

明石市ボランティア連絡会創立50周年

記念式典&記念講演会が開催されました



坂口実行委員長による開会あいさつ



三宅会長のあいさつ

6月6日に明石市ボランティア連絡会(以下、「明V連」)の創立50周年を祝う記念式典と記念講演会が開催されました。約150名が出席し、体育室だけでは収まらず、別室中継も行いました。記念式典には丸谷聡子明石市長をはじめとする来賓の皆さまにご臨席いただき、続く記念講演会では「ボランティアのまち 明石」と題して前明石市長の泉房穂 参議院議員による講演が行われました。

1976年に「ボランティアの横の連携を密にする組織を作ろう」という市社協の呼びかけにより、6つのグループで発足した明V連は、現在67グループにより構成されています。昨年度から50周年記念事業実行委員会を組織し、坂口逸子 実行委員長、三宅由香 明V連会長を中心に式典等の企画運営を進めてこられました。引き続き来年度の記念誌発行に向けて話し合いを続けています。

明石市ボランティアセンターは長きにわたり明石のまちをあたたく支えてくださっているボランティアの方々への感謝と敬意と共に、今、そしてこれからも皆さまの「楽しい」「やってみたい」を一緒に叶えるために、多様な事業に取り組んでいきます。

ご祝辞をいただいた来賓の皆さま



丸谷市長



寺井市議会議長



記念講演会の様子



ボランティアをしてみませんか!!

「明石市ボランティア連絡会」は、明石市内を拠点に活動しているボランティアグループで構成されたボランティア組織です。

グループ相互の交流と情報交換を図り、ボランティア活動の充実と社会福祉の向上を目指して、多彩な事業をおこなっています。

問合わせ

明石市ボランティアセンター(地域支援課内)

☎ 924-9106

FAX 924-9109

令和8年度 ボランティア養成講座のご案内

養成講座名	内容	開催日程	場所
音声訳 ボランティア	視覚障がいへの理解を深めるとともに、録音図書の制作や対面朗読など、音声による情報を提供するための基本的な技術を学びます。	令和8年9月17日(木) ～11月19日(木) 全10回	総合福祉センター
福祉施設での ボランティア	福祉施設におけるボランティア活動について学び、実際の活動につなげます。	11月（予定）	特別養護老人ホーム 恵泉
手話 ボランティア	コミュニケーション方法のひとつである手話を体験し、聴覚障がいへの理解を深めます。	11月（予定）	ふれあいプラザ あかし西
要約筆記 ボランティア	聴覚障がいへの理解を深めるとともに、その場で音声文字にして情報を提供するコミュニケーション技術を学びます。	令和9年2月5日(金)、 12日(金) 全2回	総合福祉センター

各講座の詳細や申込案内については、ホームページにて随時お知らせします。

ふれあい会食 当津会館

ふれあい会食とは

会食会場に集い、昼食をともにすることで、地域住民との交流を図り、高齢者の孤食と閉じこもりを予防する事業です。対象者は、おおむね65歳以上のひとり暮らしの方又は高齢者世帯で利用が必要と認められる方です。（負担額1食400円）

衣川地区にある当津会館（日富美町）にて行われている「ふれあい会食」に伺いました！

会食は、毎月第1・3金曜日に、ボランティアさんの運営により行われています。

訪問当日は、会場にいる皆さまが楽しそうに談笑しながら過ごされていました。またこの日は、大学院の学生さんが、研究のために「昔遊び」についてアンケートを取りに来られており、人数も多く賑やかな雰囲気となりました。当津会館で会食が始まった当初から参加している方や、90代の参加者もいらっしゃいます。「みんなでこうやって集まって話をできるのが楽しい」と話され、皆さまが会食の場を大事にされていることが感じられました。

体操や歌を歌う時間もあり、最後には♪きよしのズンドコ節♪に合わせて体操を行い、和やかに終了しました！今後もこの「ふれあい会食」が、地域での良い居場所となり続けるお手伝いをしていきます。



参加された方々には、ボランティアさん手作りのかわいい折り紙が配られました(^^)

問合わせ

地域支援課



924-9106



924-9109

リポート地域活動

朝霧地区

東朝霧丘町内会スプリングフェスティバル

地域のつながりをさらに強く！

東朝霧丘町内会では、独自のイベントとして5月16日に「スプリングフェスティバル」を開催しました。このイベントは入場無料で出入り自由。音楽をメインとした内容で、ピアノやギター、ウクレレなど、さまざまな楽器の生演奏を楽しむ時間が設けられました。またフリーマーケットやお手製辛子味噌の販売もされ、当日は子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方が来場し、活気あふれる多世代交流の場となりました。

また、同町内会では集会所を利用した活動の予定表を毎月作成しており、一目でスケジュールが把握できるよう工夫されています。さらに、若い世代に向けて「デジタル回覧板」を導入するなど、幅広い層への積極的な情報発信にも取り組まれています。



二見地区

みのりの会の楽しいサロン

笑顔がみのるつどい場活動！



二見地区内で、ボランティアグループとして一番の歴史を持つ「みのりの会」。稲の穂が実る頃に立ち上がったことが、グループ名の由来です。

代表の山本洋子さんは「笑顔で楽しく、みんな一緒に対等に」をモットーに活動されており、メンバーの皆さまもその姿勢を受け継いでおられます。



月に一度の「楽しいサロン」は、参加者の皆さまが心待ちにしており、終了後には「今月のサロンが終わって寂しいなぁ」「また来月まで頑張るわ」とのお声が。ボランティアと参加者の間に壁はなく、その場に居る全員が一緒に活動を楽しむことが人気の秘訣。毎回のチラシには「皆さまお誘い合わせの上、ご参加ください」という一文が欠かさず載っており、オープンな雰囲気が伝わってきます。

サロン一週間前には、ボランティアの方々が参加者の方々へチラシを持ってご案内。必ず対面で行い、顔の見える関係づくりを日頃から大切にされています。

はじめました! 返礼品付き社協会費制度

一口2,000円以上の特別会費を二口4,000円以上ご協力いただいた個人の方に対して、「TaCCoTaCCo(たっこたっこ) 応援券」を返礼品として配付(4,000円毎に1枚配付)しています。「TaCCoTaCCo(たっこたっこ) 応援券」は、市内の就労継続支援事業所などで、商品の引換券として利用することができます。この制度により、地域の福祉活動を支えるとともに、就労継続支援事業所などの販売促進や活動の周知につなげたいと考えています。



TaCCoTaCCo
(たっこたっこ) 応援券



詳しくは本会
ホームページを
ご覧ください。

社協会費 制度とは

本会では、市民の皆さまや福祉団体等の皆さまに会員となっただき、福祉に関わる活動を進めており、その財源として、広く会費のご協力をお願いしています。いただいた会費は、本会のボランティア活動支援や地区社協を通じて各地域で取り組まれる福祉活動、法人事務運営費の大切な財源として活用しています。なお、会費の種類は下記のとおり3つあります。

① 普通会費

一世帯あたり 120円

(自治会等を通じて)

市民の皆さま

② 特別会費

一口2,000円以上

本会の事業にご賛同いただいた

個人の方

③ 団体会費

一口5,000円以上

本会の事業にご賛同いただいた

福祉施設・団体・企業の皆さま

「返礼品付き社協会費制度」
の対象となるのはコチラ!

問合わせ

法人運営課



924-9105



924-9109

社協会費のつかいみちの一例

“きんもくせいの会”

錦城地区を中心に、口腔体操、認知症予防運動、歌やレクリエーションなどを行っているボランティアグループです。

皆さまからご協力いただいた社協会費が、錦城地区社会福祉協議会を通じて、ボランティア活動の一部に活用されています。

訪問日は、交通ルールの変更により注目されている「自転車・歩行者のルールやマナー」についての講座を開催。また、口腔体操や歌体操で体をほぐし、最後は皆でお茶を飲みながら、笑顔溢れるコミュニケーションタイムへ。

「一人で外出できない性格だから、このような場があって、地域の方とお話できるのがとても楽しい」との感想がありました。



問合わせ

地域支援課



924-9106



924-9109

あかし後見基金

KOKENプロジェクト(産官学連携)を神戸学院大学で行いました!

明石市後見支援センターでは、「後見制度が必要な方に使ってほしい」という市民の方の遺贈をもとに、後見基金を創設しました。基金を活用した後見基金事業では、後見制度の普及啓発、市民後見人の活動支援のほか、後見制度利用者への支援等、寄付の趣旨に沿った支援を行っています。

昨年度、神戸学院大学にて、産(社会福祉法人明桜会、社会福祉法人三幸福社会)・官(明石市)・学(神戸学院大学)が連携した「後見基金広報啓発プロジェクト」を開催しました。そこで、後見基金の確保や普及啓発に向けてオリジナルのクリアファイルを製作しました。

製作にあたっては、神戸学院大学の学生にも関わってもらい、「誰が見てもわかりやすい」「寄付方法が分かる」「中身が見やすい」など様々なアイデアをもらいました。

今後は後見制度が必要な方に支援が行き届くよう、アイデアがこもったクリアファイルを活用していきます。クリアファイルに関する問い合わせは後見支援センターまでお願いいたします。



問い合わせ

明石市後見支援センター



924-9151



924-9134

1週間の職業体験

トライやる・ウィーク

令和8年6月1日～5日

総合福祉センターの
しごとや
ボランティアを
体験しました!

明石市立錦城中学校、衣川中学校の2人が1週間の職業体験をおこないました!
総合福祉センターの仕事やボランティア体験をとおして、さまざまな福祉活動を学びました。



ぜひ!見に来て
ください!

▲総合福祉センター受付の壁画をきれいにしてくれました!ありがとうございました!



ボランティア活動体験

車いす体験



貴重な体験に
なりました!

学んだことを
広めていきたい
です!



錦城中学校
中川丈助さん



衣川中学校
宇野明里さん

問い合わせ

明石市立総合福祉センター本館



918-5660



918-5661

善意銀行

令和8年3月20日～令和8年6月19日(預託日順)

金銭預託 計17名(3,807,392円)※遺贈寄付金含む

- ウエストスクエア団地自治会 様
- 角田 芳子(故人) 様
- 遺品整理のプラバーズ 様
- 日置運送株式会社 様
- 貴崎小学校地区社会福祉協議会 様
- 匿名12名

物品預託 計21名(お米、食料品、日用品、介護衛生用品など)

- 生活協同組合コープこうべ 様
- 株式会社ダイエーKOHYO明舞店 様
- 株式会社マルハン明石大久保店 様
- 納 裕昭 様
- ヒラキ株式会社 岩岡店 防犯室 様
- 渡辺 美佐野 様
- 株式会社ジャパンエンジンコーポレーション 様
- 匿名13名
- ニュークリエーションセンター明石教会 様

物品払出 計14件



株式会社マルハン明石大久保店 様
(右)より

問い合わせ

地域支援課



924-9106



924-9109

オレンジサポーター養成講座

in 樺まつり2026



4月26日、兵庫県立大学明石看護キャンパスで行われた“樺まつり2026”において、オレンジサポーター（認知症サポーター）養成講座を実施しました。

大学の担当教員からは、「卒業後は医療機関等に勤務する学生が多いのが実情。だからこそ、本講座を実施する総合支援センターの医療職（病院などではない在宅生活の支援に携わる）の働きぶりについても見て触れて感じてもらいたい」といった期待（意図）をお聞きしておりましたので、オレンジサポーター養成講座がみなさんのお役に立てばと思います。

学生やその家族ら33人の参加があり、参加の動機としては、「認知症の家族がいるから」「認知症を知りたかったから」と様々でした。

また、この講座の知識を活かした今後の活動としては、「話し相手になる」「見守り支援」「施設などでのイベントのお手伝い」「買い物など家事支援」「実習や将来の病院勤務」など、サポーターに期待される役割がアンケートで確認できました。



講座の一環として、オレンジサポーター養成講座の講師によるヨガ（癒し）を実践中

3つの「ない（驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけない）」を意識して、祖父母に接していきたいと思った。

祖父母の老後から目を背けないために、自分にできることを学びたいし、今後も落ち着いて大切にコミュニケーションを沢山取っていききたい。



問合わせ

きんじょう・きぬがわ総合支援センター



915-2631



915-2632

令和7年度(2025年度)事業報告と決算

重要事業の取り組み

1 「住民と一緒に考え、誰もが参加できる地域福祉活動のしくみづくり」への取組

令和8年度より新たな計画期間となる「第4次地域福祉活動計画」の策定を進めました。策定にあたり、対話の場を重視したプロセスを歩むとともに、職員自身が社協の役割を考え直す機会とするよう努めました。地域の声を丁寧に汲み取り、計画へと反映させたことで、住民・関係機関・本会が共に歩む指針となる計画策定を行うことができました。

地区担当職員が各地区で取り組まれる様々な活動に伺い、活動の内容、活動者の想いを知り、地区担当職員同士で逐一共有することで、支援体制の向上を図りました。

また、地域で取り組まれる様々な活動と社会福祉法人が取り組む地域貢献活動を、互いに知り協働を考えられる場として「地域福祉フォーラム」を開催し、将来的な協働体制の構築に向けた基盤を整備しました。

さらに、災害時の支援体制強化を目的として、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を実施しました。訓練当日は、事前登録ボランティアの皆さんに対して、受付からマッチング、模擬活動、活動報告に至る一連の流れを実践形式で検証し、役割の明確化と運営上の課題抽出を行いました。また、新たな試みとして、災害ボランティアセンターサテライト設置訓練を実施し、住民との協働運営に向けた理解促進を図るなど、住民が中心となるネットワークの構築を推進しました。

2 「住民の声を受け止め、寄り添う、包括的な相談支援体制の構築」への取組

地域で暮らす高齢者や障がい者、認知症の方やその家族、ヤングケアラー等複雑化・複合化した課題を抱える住民や世帯に適切な支援が行えるよう、多機関や地域住民との協働による包括的な相談支援体制を構築する取組を行いました。

個別相談から課題解決に向けて、地域ケア個別会議を開催し、多機関で共有や協議を進めました。多機関でのネットワーク構築が困難な場合には地域総合支援センターが多機関協働事業者として支援会議を開催し、支援方針と役割分担を確認してスムーズなケース支援ができるよう働きかけました。

あわせて職員のスキルアップを図るため、相談面接力向上研修やアンガーマネジメント研修を行いました。自身の怒りの原因・傾向や怒りを感じたときの対処法を学び、全職員で自身が取り組むことを決めて実践しております。

3 「地域共生社会の伴走者であり続けるための、明石市社会福祉協議会の体制強化」への取組

職員採用に向けた取組として、就職説明会の開催や兵庫県社会福祉協議会が主催する「福祉の就職総合フェアin HYOGO」に出展し、本会での仕事の魅力を発信しました。これらの取組を通して、人材確保や採用後の仕事のミスマッチによる離職防止を図っていきます。

自主財源の確保や自主事業の展開として、令和8年度の実施に向けて、返礼品付き社協会費制度の取組を進めました。この取組を通して、地域福祉活動の更なる充実や自主財源の強化、障害福祉サービス事業所などの活動の周知を図っていきます。

総合福祉センターの充実については、令和7年度から明石養護学校への温水プール貸出しを開始し、利用者の拡大に努めました。

